

## V P P の太陽光発電「余剰電力循環モデル」



自家消費太陽光発電設備を設置したホームセンター  
バロー養老店＝養老郡養老町高田

### 年度内発電容量計15メガワット

6月からホームセンターバローの養老店と本巣文殊店に導入し、発電した電力をV P Pから購入。消費し切れない余剰電力は、アイ・グリッドが需給調整をして、他の事業者や家庭などに供給している。アイ・グリッドは蓄積したデータを

# バロー、50施設に整備へ

バローホールディングス(HD)と、電力供給事業のアイ・グリッド・ソリューションズ(東京都)、同社子会社のV P Pジャパン(同)は、第三者が発電設備を無償設置する「P P Aモデル」で、V P Pがバローの施設に自家消費太陽光発電設備を設置したと発表した。余剰電力を他の電力利用者に供給する「余剰電力循環モデル」として、来年3月末までにバローグループの50施設に、合計発電容量15メガワットの太陽光発電設備の導入を計画する。

(山本貴史)

基に電力や気象データを人工知能(AI)で解析。施設ごとの24時間後までの電

力使用量の予測と、太陽光発電量の予測を組み合わせて余剰電力量を計算する。バローHDは2030年度までに、二酸化炭素排出量を20年度比で40%削減する目標を掲げており、実現のための方法の一つとして

このモデルを推進する。「余剰電力を創出することで自社のみならず、他の電力利用者への再生エネルギー提供に貢献できる」として、物流センターや食品製造拠点にも設備を導入する方針だ。